

六甲アイランド(神戸市東灘区)にてモイワウスバカゲロウと思われる種を採集

吉村 卓也

モイワウスバカゲロウ *Epacanthaclisis moiwana* (Okamoto, 1905) は山地性のウスバカゲロウで、まだ幼虫が見つかっていない、数少ない種である。成虫の脚にはオオウスバカゲロウのような微毛が生えており、体長は 35mm ほど、前翅長 38mm 内外である。2010 年 7 月 22 日、神戸市立六甲アイランド高校からの帰り道、神戸市東灘区向洋町中 3 丁目の荒地の近くで、本種と思われる個体(写真 1)を採集したので、報告する。

六甲アイランドは、約 20 年前に神戸に誕生した人工の島である。山を切り開き、須磨、西神戸ニュータウンが開発されたが、その際、その山の土や植物が海に運ばれて埋め立てられたのが六甲アイランドだ。現在も六甲アイランドには、土地活用がなされていない場所が何箇所もある。いわば島ができて以来、放置された状態といえる。そのような場所は、フェンスがしてあるため、一般の人が入れる状態にはなっていない。また伸び放題の草の手入れも、年に 1 回くらいや、まったく行われていない場所もある。

僕が見つけた場所(写真 2)の近くにはそのような荒地(写真 3)があったので、須磨の山々の土に棲んでいた幼虫が運ばれてきて、島の創設以来、秘かに住み着いて命を育てていたのかもしれない。ウスバカゲロウ科は飛翔力が弱く、成虫が飛んでいる周辺で幼虫がいる場合がよくある。だから、この荒地からモイワウスバカゲロウの幼虫が見つかるかもしれないと思っている。

これまでにモイワウスバカゲロウが採集された環境は、ほとんどが山地で、六甲アイランドとはかなり異なっている。六甲アイランドには港があり、外来種が見つかりやすい環境でもあるため、外国からの外来種の可能性もある。最近、中国から、モイワウスバカゲロウを含む *Epacanthaclisis* 属 9 種が記録されている (Ao *et al.* 2010)。僕には、今回発見した個体が *Epacanthaclisis moiwana* かどうか判断できないため、今回の記録を「モイワウスバカゲロウと思われる種」とした。

発表にあたりアドバイスいただいた、兵庫県立人と自然の博物館の八木剛主任研究員にお礼申し上げる。

○参考文献

Ao, W., Wan, X., Wang, X., 2010. Review of the genus *Epacanthaclisis* Okamoto, 1910 in China (Neuroptera: Myrmeleontidae). *Zootaxa*, 2545: 45-57.



(Takuya YOSHIMURA 神戸市立六甲アイランド高校 1 年)